

令和3年度第2回総合教育会議 議事録

1 日 時

令和4年1月17日（月） 16時00分～17時30分

2 場 所

丹波篠山市役所第2庁舎 2-301.302 会議室

3 会議に出席した構成員

市 長	酒井 隆明
教育委員会	
教育長	丹後 政俊
教育委員	西田 正志
教育委員	中村 貴子
教育委員	垣内 敬造
教育委員	山本 恭子

4 事務局出席者

	部長	稲山 悟
	部長	小林 康弘
	次長	西羅 忠和
	次長	酒井 宏
教育総務課	課長	中野 悟
学校教育課	課長	岸田 幸雄
総務課	課長	河南 剛
総務課	課長補佐	山田 康弘
教育総務課	係長	田中 真紀子

5 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	<p>1 開会</p> <p>総合教育会議を開催したところ、お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。</p> <p>前回 11 月 25 日に第 1 回総合教育会議を開催し、市内 3 高校の進学者を増やすためにどのようにしたらいいのかということで、直ぐにできる対応として、まず市内 3 高校が魅力のある高校であるということ、子どもたちや地域の方に PR をしていくしかないということから、会議の中で提案いただいた市広報紙、LINE、ポスター等できるだけ取組を進めた。かなり雰囲気は変わってきたように思うが、実際進学に結びつくかどうかはまだわからない。それから、通学支援策についても早急に協議をして市民に発表したところである。</p> <p>本日は、状況とともにこれから更に長期的にどのような取組を続けていけばよいかについて意見をいただきたい。前は、中高だけの連携だけではなく、小中高での連携、市民あげて地元高校を盛り上げていくような組織も必要であるというような意見もいただいた。現在の状況を踏まえつつ引き続いての取組を進めていきたい。</p>
酒井市長	<p>2 協議事項</p> <p>では、①市内高校進学に向けての現在の状況について、教育委員会事務局に報告を求める。</p>
西羅次長	<p>「①市内高校進学に向けての現在の状況について」と合わせて、「③市内高校活性化に向けての教育委員会としての取組」についても報告する。</p> <p>まず、資料にはないが、11 月時点での市内高校についての状況について、県に確認をしたので報告をする。</p> <p>11 月時点での篠山鳳鳴高校への進学希望者は、9 月から微増である。9 月時点で 98 人、11 月時点で 101 人となっており 3 人増となっている。内訳は、普通科が 62 人であったのが 66 人、総合科学が、36 人であったのが 35 人となっている。</p> <p>それでは、主にレジュメ「丹波篠山市中高連携（市内高校進学）について」で説明する。</p> <p>この資料は前回 11 月 25 日の総合教育会議後の取組についてまとめたものである。</p> <p>各高校において取り組みされたものと、市において取り組んだものをまとめている。</p> <p>各高校で取り組まれたもの、これは新聞記事でご覧になられたこともあるかと思うが、丹波新聞連載で、「われら 3 校新聞部！地元高校の魅力を伝えます」という記事である。12 月から 3 者面談があるということから、丹波新聞で、11 月に各高校 2 回ずつ連載記事が掲載された。内容は、各高校での取組内容や活動内容等をわかりやすく掲載されたもので、計 6 回掲載された。</p> <p>そのほか、各高校ではパンフレットやチラシもつくって啓発をされた。</p> <p>続いて、本市における取組である。こちらは 11 月 25 日の総合教育会議</p>

で提案いただいた取り組みも含まれている。

1 つ目、丹波篠山市の広報 12 月号の表紙及び特集記事の掲載ということで、「丹波篠山の高校へ行こう」という第 2 回目の特集記事を掲載した。この広報紙は結構市民の方に読んでいただき、この活動が広がっていると思っている。ポスター掲示を依頼する時も、広報紙を読んでいただいた方が多く、話が進めやすかった。

この特集記事は、別刷りをして、中学 3 年生、2 年生に配布し、また持ち帰ってもらえるように公共施設等にも設置した。

続いて、前回の総合教育会議の翌日である 11 月 26 日、丹波新聞森田記者を講師として、講演会「10 年間の地元高校の話題の変化」について講演をいただいた。

ここからが前回総合教育会議で提案いただいたものの対応である。

「市 LINE やホームページで 3 高校の魅力を発信」については、【資料 1】のとおり、トップページのトピックスから、高校紹介の動画が観られるよう、新たな項目を起こした。そして新しく作成したページがその下段である。

「それ、丹波篠山のできるで！」のページで、市長コメント、3 高校の紹介、資料ではサンプルとして篠山産業高校を掲載しているが、3 高校分を掲載している。

また、【資料 1】右に掲載しているのは、LINE での発信である。LINE でもこのように 3 高校の情報発信を行っている。

続いて、【資料 2】のとおり「丹波篠山の高校へ行こう」のポスターを作成し、B2 版縦、B3 版横を作成し、中学校や公共施設、路線バス、市内の店舗にも掲示をお願いした。

また、市内全 261 自治会にも広報紙とともに配布し、自治会によっては掲示板等に掲示していただいている。

その次、「通学しやすい環境をつくるための路線バスルートの見直し」、【資料 3】である。前回の総合教育会議では、運行時間等の都合で具体的な資料提示ができなかったが、市内各地から篠山鳳鳴高校、篠山産業高校へのルートをネットワーク化して、バスで高校に通えるように体制を整備した。時間は、現在のところ朝 8 時台と下校の 16 時台の設定となっている。

このバスルート見直しやポスター作成等については、記者発表、自治会長会理事会でも説明し、この活動についての理解を求めた。

そのほか、市内の学習塾を訪問し、市内高校への進学についての協力要請も行った。

12 月 21 日には、市内全中学校 2 年生を対象に、「夢プラン」を開催した。様子は【資料 4】のとおりである。「夢プラン」は、例年田園交響ホールに市内中学 2 年生が集まり、そこで直接高校生からの紹介を聞いたり、高校生等と意見交換をする事業である。今年はコロナ感染対策ということからオンラインで実施し、市役所を基地として各中学校とネットワークで結び、3 高校の紹介や紹介ムービーを見ていただき、中学生から高校生に質問をする、そ

	<p>れに対して、スタッフや3 高校生が回答するという方法で実施した。以上が今までの取り組みである。</p> <p>令和4 年度の中高連携事業については、2 月2 日に予定している中高連絡会において、今年度取り組んだ各種事業の評価とともに、次年度は、どのタイミングでどういうことをやったらいいかということを確認する。令和3 年度は、総じて高校の魅力が十分発信が出来てない、情報が市民に知ってもらえていないということから、情報不足への対応として、魅力発信を支援したり、市からも情報発信をしてきた。また、環境面での不利をできるだけ克服するために、バスルートの変更等に取り組んだ。</p> <p>令和4 年度では、新たな視点として、今度は中学校・高校の担任の先生が連携していくような事業や、小中高の連携をつくる事業等をこの連絡会で提案をしたいと思っている。</p> <p>現在は、令和4 年度予算の編成段階であるが、主なものとして、今年度お世話になった教育アドバイザー山脇さんへの依頼のほか、高校の独自活動の支援、市独自の事業として、啓発資材の印刷、協力者や講師謝礼の予算を計上している。</p> <p>これらが、「③市内高校活性化に向けての教育委員会としての令和4 年度の取組」である。</p>
酒井市長	<p>篠山鳳鳴高校の志望者 101 人であるが、定員 160 人中 101 人ということか。主にこの PR 活動を始めたのが、11 月終わりから 12 月、1 月に入っているが、今現在の状況を事務局ではわからないのか。</p>
西羅次長	<p>具体的な数字としては答えられないが、各中学校を訪問して話を聞くと、これらの活動で、情報に触れる機会が増えたことによって、中学生も市外の三田市等の高校へ行かなくても、地元の篠山鳳鳴高校に進学しようという考えが増えてきたような印象を受けると聞いている。</p>
酒井市長	<p>生徒が志望校を確定させるのはいつなのか。</p>
西羅次長	<p>推薦入試が2 月7 日で、篠山鳳鳴高校でいうと総合科学が推薦入試になる。一般入試は2 月28 日である。</p>
岸田課長	<p>1 月中旬に、全員ではないが三者懇談を設定しており、そこでほぼきまっている。</p>
酒井市長	<p>もう大体決まっているということか。</p>
岸田課長	<p>1 月下旬から推薦入試の願書を書き始め、2 月10 日頃から公立高校の一般願書を書き始める。</p>
酒井市長	<p>ほぼ志望校が決まっているかもしれないが、今からできることとすれば、最後の最後まで学校の担任、塾関係者に、志望校決定で迷われている人がいれば、できるだけ市内高校をすすめていただけるようお願いする。</p>
中村委員	<p>市長からの宿題「教育委員会としてできること、市民ができること」について考えた。市内へポスター掲示、トイレ改修、バス通学、これらの成果から地元高校に入学する。入学後に本当にここの高校で良かったと生徒が思えたら、自身で後輩に PR をするようになると思う。その為には高校教員が鍵に</p>

	<p>たのではないかと思った。教育長や酒井次長の温かいメッセージや、地域の方々のお話もあり、市内高校の卒業後もイメージもできた。時間内でとても濃い内容を盛り込んだ「夢プラン」であったと感じた。「夢プラン」により子どもたちは市内3高校のことがよくわかったと思うが、進路については保護者の意向も大きく左右すると思うので、この「夢プラン」を是非保護者にも観ていただきたいと思った。教育委員会から、YouTube 動画の DVD 貸出しができるかと保護者に案内が届いていたが、どれくらいの保護者が観ているのか。これを観ると、市内3高校に対する、ぼんやりしたイメージや、何となくのイメージが払拭されるのではないかなというぐらいの内容だったので、是非観ていただきたい。保護者に視聴してもらうために、まず現状把握としてアンケートをとり、観ていない方には観ていない理由などを聞くことができればよいと思った。中学校からも再度 DVD 視聴の宣伝を保護者にしていただけたらありがたい。保護者がどのような価値観でもって子どもの将来のことを考えているのかという、そこが進路につながると思う。保護者の意識を変えようというか、私自身も今回「夢プラン」を YouTube で観て、教育委員会や、市全体で子どもたちの将来を考えるという大きな思い、温かさを感じた。様々な取組をしているが、私はこの動画を観ていただきたいと思った。</p>
酒井市長	<p>山本委員の発言にあった YouTube 動画は、直ちに保護者に観てもらうことは可能なのか。</p>
山本委員	<p>今の中学3年生にもまだ間に合うと思う。</p>
岸田課長	<p>教育研究所のホームページに市内3高校紹介動画は掲載している。学校にも貸出 DVD を置いている。保護者への貸出件数は、各校数名だと聞いている。</p>
山本委員	<p>前回の総合教育会議で口コミも大事だとお伝えしたが、いくら口コミが良いといっても限度がある。学校からその案件のアンケートをとっていただき、そのアンケート項目で、観たか、観ていないかと問うことが、観てくださいという PR につながるんじゃないかと思う。</p>
酒井市長	<p>今の中学3年生の多くがもう志望校を大体決めている状況で、この3月にできるだけ定員割れの状況を食い止めないと、本当に危機的な状況になる。直ちに観てもらうようにしなければいけない。どうすればよいか。</p>
稲山部長	<p>この動画は2時間あり、保護者の方も全部は観にくいかもしれない。分割等して観やすい状態にしたほうがよい。</p>
酒井次長	<p>「夢プラン」の中で上映した市内3高校紹介動画は教育研究所ホームページで観ることが可能である。ただ、生徒たちの意見発言は、著作権の関係で DVD でしか観ることができない。高校紹介は各高校 20 分ぐらいの動画である。直ちに市 LINE で観てもらえるようすぐ対応する。</p>
酒井市長	<p>保護者は市 LINE から観ることができるのか。</p>
酒井次長	<p>LINE 登録をされていれば観ることができる。</p>
山本委員	<p>高校紹介動画が本当にわかりやすかったことと、「夢プラン」が中学生自身が司会をしていたこと、教育長、酒井次長のメッセージもあって、とてもわかりやすく、子どもにも反響があった。中学2年生には、市内高校に行き</p>

	<p>たいという声が出てきているので、保護者も大事だなと思い、アンケートができないのか聞いたわけである。今の中学3年生には難しいので、中学2年生に向けて、7月オープンハイスクールまでにそういうPRをして、保護者に観ていただく策があればと思う。</p>
酒井市長	<p>中学2年生に向けてならいくらでもできる。ただ、今協議をしているのは中学3年生に対してということである。</p>
西羅次長	<p>山本委員が言われている動画は、対象が中学校2年生だったので中学2年生向けの動画だと思う。これを中学3年生に観せると、実際受験する生徒の立場からいうと、緊張状態のときに何か刺激を与えてしまうような感じがするので、その辺りのもって行き方として、慎重にしないといけないと考える。高校選択は、子どもにとってはとても大事なことで、子どもなりにいろいろ考える。中学3年生にはデリケートなタイミングでもあるので、ちょっと観てみようかというぐらいのものにした方がいい。</p>
酒井市長	<p>ただ、山本委員が言われているのは、ポイントとして、中学2年生本人よりも、保護者に市内3高校を知ってもらうためにということである。そういう意味ではすぐに観ることができるよう、直ちにLINEで周知をする。</p>
酒井次長	<p>どれぐらいの保護者がLINE登録をされているのか。</p>
酒井次長	<p>教育委員会ではわからない。情報政策担当なら登録者数はわかるが、そのうち保護者がどれぐらいかまではわからないと思う。</p>
垣内委員	<p>かなりの取組をしていると思う。バス路線も増やして、学校紹介も頑張ってもらっているので、それ以外の案もなかなか出てこないが、西田委員が言われたとおり、事例研究を私もしていきたい。同じ課題を抱えている自治体もたくさんあるであろうし、またうまくいってる自治体もあると思うので、その両方を見させていただきたい。</p>
酒井市長	<p>丹後教育長は高校教員をされていたのでお聞きするが、どこの高校もずっと順調にいつているばかりではなく、順調でなかった時期もあったがまた頑張っているとかいろいろあると思うが、何かそういった事例はあるのか。</p>
丹後教育長	<p>私が勤務したのは篠山東雲高校と三田西陵であるが、これだけ地元市が応援してくれている今の状況はあまりなかったと思う。私自身そのときは高校校長として、どれだけ志望者を集めるか、市からの協力とかいう意識がなかったので、自分で自分の学校を何とかしないといけないという思いでやっていた。そして最も力を入れたのが学校説明会であった。保護者の方、中学生に直接アピールできるということで、そこは力を入れてやっていた。その説明会の善し悪しをプレゼン能力で決めることはおかしいかもしれないが、これで結構印象が違ってきて、志望者が増えたりということは実感として感じていた。今回のように地元市がバックアップしてくれる体制はありがたいので、高校側も動かなければいけないと思うが、実際の校長の立場からすると、ありがたいと思うのか、切羽詰まってくるというのか、負担でプレッシャーに感じるのか、少し心配なところもある。そうは言っても自分たちの大事な学校なのでできることはしていかなければと思う。</p>

酒井市長	<p>私は、来年度4月以降に、西田委員も言われた小中高連携、小学校中学校と一緒に高校も一緒に連携をして、先生方の意思疎通を図っていただいたり、理解を深めたりという取組が今までできていないので、教育委員会としてこれに力ををを入れていただきたいと思う。</p>
丹後教育長 酒井市長	<p>はい。</p> <p>今年度は何とも言えないが、昨年度なら市内中学校教員が、生徒の進路指導で市外の高校をすすめるという、現実にはそういったことがあった。これは保護者が言われていたので間違いない。市内中学校教員が、迷っている生徒に、市外高校をすすめるなんていうことが今まではあったように思われる。それでは当然市外高校に行ってしまう。生徒たちは限られた情報の中でしか進路を選択しないので、小中高で連携を深めるようなことをしないと、教員一人一人が、また教員が個々にいろんな方向ばかり向いているようでは、私達がいくらここで協議をしても意味がない。連携をとって一緒に取り組む体制を教育委員会がどのように進めていくのかということである。</p>
丹後教育長	<p>今年度、中学校及び高校校長に中高連絡会で集まっていたき、話し合いをしてきた。このことを暫くやっていなかった時期があった。今年度は中高連絡会をしたので、中学校及び高校校長の連携はとれつつあると思う。特に中学校長が熱い思いを持たれていると感じる。ただ一般教員までの全てを把握してはいるわけではないので、学校管理職以外の教員の方、その教員は市外から通勤であったり、丹波地域以外から通勤をしているかもしれないが、教員自身が、丹波篠山の高校の良さを知らないかもしれないという思いはあるので、校長同士の連携も大事であるし、それプラス教員たち、特に中学校教員に市内3高校のことを知ってもらう、そういう機会もできればと思っている。</p> <p>ほかに、高校教員が中学校で授業をすとかいうのもあってもいい。逆に中学教員が市内高校に行く機会も増えればいい。市内高校に頻繁に出入りをしているとその良さがわかってくると思うのでそういう機会は作ってみたいと思っている。</p>
酒井市長	<p>教育委員会の体制であるが、今年度西羅次長が中心となって中高連携事業をやっているが、西羅次長の下に職員はいない。一人で取り組んでいるようなものである。学校教育課や教育研究所があるが、一番大切なこの課題を教育委員会事務局として西羅次長1人が動き、ほか誰も職員がついていない。私は、教育研究所がこの課題を取り上げないことを正直おかしいと思っている。こういう大きな課題にこそ取り組まないと、一番大事なことを取り組まず、他に何に取り組む必要があるのかと思う。教育委員会あげて小中高連携について、何かに蓋をするのではなく、お互い何が足りないとか、そういうことを意見し合ったり真剣に話し合わない、きれいごとばかり言っていて何もできない。是非そういう対応をとっていただきたい。</p> <p>「それ、丹波篠山のできるで！」のポスターは誰が考えたものか。これは教育委員会職員ではない。市長部局職員が考えたわけである。教育委員会には、教員が事務局に在籍しており、教職員OBもたくさんいるわけで、我々よ</p>

<p>酒井次長</p>	<p>りはるかに学校現場を熟知しているわけである。そのような職員がもっと真剣にこの問題について目に見えるような取組をお願いしたい。</p> <p>酒井次長どうか。</p> <p>確かに、今まで教育委員会は0歳から15歳までの子どもたちの教育を中心に充実させていくということが、学校教育において大前提で進めてきたので、15歳の子どもたちが更に進むべきところを、どのようにしていくかというところについては足りない部分があった。ノウハウがない部分、私自身も難しいと思ってるところもある。しかし教育研究所で研究し市教育委員会のできることはやっていかないといけないと感じる。市教育委員会は、中学校3年生のところまでみたいなどころがあり、それ以降については、元気に育ててほしいという願いの部分までしかなかった。中学卒業後の進路先の決定という部分にどう関われるかということについて、考えていかなければならないと思っている。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>来年度の教育委員会事務局の組織を考えるにあたって、小中高連携というのを教育委員会事務局として取り組むという体制をとり、また教育研究所のテーマの中にも取り上げていただきたい。教育研究所というのは、丹波篠山市教育の大切な課題を研究していくということで設立したはずである。授業内容などは検討されているとは思いますが、それに先立って、それとともにこういった今の課題を、どうやって進めていくかということ、正に教育のプロの職員たちがいる研究所で取り組んでいくべきと私は思う。</p>
<p>丹後教育長</p>	<p>前回の総合教育会議で、市長から課題を投げかけていただいて、そこでいろいろ対応が決まり、西羅次長の呼びかけで市長部局の職員にも手伝ってもらってポスターができたり、通学バスの見直しもされ、あれだけの短期間で決まり、市は、教育委員会は、高校問題にいろいろ取り組んでいるという声が私の耳にも入ってきている。この短期間に集中してしてきたこと、そのきっかけとなった総合教育会議や市長の意欲など大変勉強になった。ただそれに甘えてはいけなない。自分なりに取り組んできたつもりであるが、西羅次長が動きやすいように、私は教育委員会のトップとして全体が動けるような体制づくりが必要だと思った。来年度に向けて、研究しそのように進めていく。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>中学校によっても異なると思うが、一般教員の皆さんはこの問題についてどのように思われている様子か。</p>
<p>岸田課長</p>	<p>私は中学校現場から事務局に来ており、中学3年生に対する進路指導も経験してきた。先ほど市長が言われていたが、実際に市内高校を志望している生徒に対して市外高校をすすめることは全くないと思う。こういうことがしたいのなら、こういう学科を受験しなさいとか、こういう学科があるという情報提供はするが、どの教員も市内地元高校を大事にしている。</p>
<p>中村委員</p>	<p>今現在、篠山鳳鳴高校2年生に自分の子が通っている。篠山鳳鳴高校に特化して意見を言うなら、篠山鳳鳴高校は、進学なのか、地域貢献なのか、特色をもう少しはっきりと打ち出す必要もあると思う。いち保護者の意見であ</p>

<p>丹後教育長</p>	<p>るが、現在通う生徒や卒業生の意見もよく聞き入れていただきたい。そして高校教員にも変わってもらいたいと思う。</p> <p>1月10日に開催された「獣がいフォーラム」は、小学生中学生の取組もあったが、篠山鳳鳴高校生時代に地域探究という科目で取り組んだ地域の課題に目覚め、その後獣がい問題に関わり、高校卒業後の進路もその学科がある大学に進んだという大学生が発表されていた。また、篠山東雲高校生は、その獣がい柿をもらいほうが対策に良いからということでその柿を使ったジャムをつくりケーキをつくりたい。だから、その道を極めるために製菓専門学校へ進学し、ゆくゆくは丹波篠山でパティシエを目指すという発表があった。地元の高校だと地元で活動することが多いので、地元の課題や魅力にも目覚めるので、進学か地域貢献かを分けるのではないと思う。高校まで地域で学ぶということは非常に子どもたちの進路、これから進んでいく原動力になる。郷土愛を深めていくことは、小学校、中学校で十分やっているが、更に深めるには、できれば市内3高校を考えてほしい。市内3高校でできないことであれば別であるが、どこの高校でもそこでしっかり学べば市外高校に負けない学びができるのでそこをアピールしたい。市内で高校までということは強制はできないが、良さを伝える発信をしていくことが大事だとフォーラムに参加して更に感じた。</p>
<p>酒井市長 西羅次長</p>	<p>市内学習塾を訪問した状況について報告をお願いします。</p> <p>駅近辺の学習塾が三田市内の高校をすすめているのではないかという、仮説があり、それを検証する意味で訪問をした。最近の塾は教室式で講義するものではなく、塾生個々に合った個別指導型になっている。駅前にある塾でも、「篠山鳳鳴高校合格おめでとう」という掲示があったりするので、特に三田市内高校をすすめていることはない。塾長さんとお会いできた塾では、塾長さんと直接お話をしてきた。ただ、入塾理由が、本人の意思で三田市内の高校に進学したいから塾で勉強したいということで入塾してくる人もいますが、塾から三田市内高校をすすめることはない、どこの塾も言われた。</p>
<p>西田委員</p>	<p>私は篠山鳳鳴高校と同じ規模の高校ということで、いつも参考にするのが加西市の北条高校で、高校ホームページを見ると、ホームページには、非常に特色ある書き方、学力の保障をしますなどと記載されている。篠山鳳鳴高校ホームページを見るとその部分が足りないかなと思う。中村委員も言われたように篠山鳳鳴高校は普通科の高校なので、学力や大学進学ということは基本になると私は思う。現在も昔と同じような進学実績があるとは思いますが、何となく三田市内高校へという流れはある。小中高の連携というのは、校長ももちろんであるが、一般教員が理解し合って、高校ではこういう教育をすすめていくというのがあり、そのために中学校はこういう生徒を育てて送っていくというような議論をしていかないといけない。これは市長が言われている速効性があるものではないが、私自身も小学校教員だったので危機感の持ち方が薄かったことについて反省している。160人定員に志望者が101人しかないということは本当に危ない。市民にそれが伝わってないのかわから</p>

酒井市長

ないが、今具体案はないが、みんなで考えて地域の学校を守っていく教育をしていかないといけないと思っている。

県下の 20 数市町の長が加盟し、それぞれ地域の特色ある伝統ある高校を守っていこう、盛り上げていこうという会がある。そこで、加西市であれば北条高校があり、北条高校は近くにある小野高校に志望者が流れていくようである。それで北条高校は校内に塾を入れて、個別指導をすることで学力を保障する取組をされた。

淡路島の洲本高校は、市と連携を結んで、地域で高校を盛り上げるという連携をされている。そういった思いでいくつかの市長が会をつくってやっているが、これはとりもなおさず、高校というものの在り方が、単なる教育の問題だけでなく、地域そのものの問題であるという発想からである。兵庫県は今、高校の在り方検討というのがされていて、近々、教育長と市長にもその考え方を示すと連絡が来ている。要は、高校を適正規模にしていこうということだと思う。普通科では、6~8 クラス、職業学科では、3 クラス以上の規模が適正規模ということである。こういう大きな原則を示し、ただし、地域の特色のある学校を大事にするということを以前は言われていたが、今度はどういったものを出してこられるかわからない。志望者の少ないところはどんどん対象にしていこう、そういった中でこの問題が起きているので、地域の高校をより盛り上げていかなければ、市内 3 高校はなかなか厳しい。20 年、30 年先のことまではわからないが、今現在では市内 3 高校を維持をしていくことが一番だと思っている。まずは、高校自体が、高校自身が本当に取り組んでいただく必要がある。ところが、校長先生の考え方と私の考え方がどうも違う。何が違うかという、私が勝手に思うところでは、学校というのは地域のものから見たら地域の大切なものだと思っているが、校長先生からすると、校長が決めていくものだと思われているんじゃないか。部活動でもあったが、認識の違いはそこにあるのではないかと思う。学校は地域の大事なものだから地域の声を反映してほしいという考え、学校は校長や教員が中心で決めていくものだという考え方で、何か根本的なところが違うがあるんじゃないかと思う。だから、最終的には校長が決める、あるいは校長がやっていく。オープンスクールとか、コミュニティ・スクールとか、学校運営協議会とかは、地域に開かれた学校という表れである。ただそこが従前のままの理解できているのかなと思う。

篠山鳳鳴高校も、校長がどうであれ、教員が一丸となって自分たちの高校を良くしていこうとしていただかないと、公立高校だから、篠山鳳鳴高校を希望する生徒が来れば良いというのではいけない。私立高校は志望者を増やすために部活動や学業を上げるために一生懸命取り組んでおられる。

だからそういったことも含めて小中高と連携を教育委員会が中心となってとっていくような体制をとっていただきたい。

失礼なことを言うが、教員の方は、生徒たちの自由や権利という部分を大事にされると思う。ただ、地域の学校はやはり地域のもので盛り上げていこ

	<p>うというのが、地域のもの考え方であり、子どもが自由選択することによって結局地域の学校が無くなっていくという、そんなところに地域の発展はないので、地域のものとしては地域を盛り上げていくためには地域の学校を大事にするということは間違いないと思う。私はこれを堂々と言える。私が言っていること理解できるか。</p>
<p>西田委員 丹後教育長</p>	<p>理解できる。</p> <p>高校の一般教員にとって一番が関心あるのは、目の前の生徒をどう伸ばしていくか、どういう力をつけていくかということで、そこは授業を中心に、部活動に力を入れる教員、授業研究に力を入れる教員とか、教員によって少し異なる。自分の持ち味を生かして生徒たちの力を伸ばそうという、そこに中心があることはおかしくないと思う。</p>
	<p>校長や教頭になって学校経営に携わると、何もせずして志望者が集まるわけではないので、学校の良さをアピールして、学校を潰さないように盛り上げていかないといけないという思いは管理職には強くある。ただ一般教員にとっては目の前の生徒をどう伸ばしていくかが一番なので、学校全体が地域にとってどれだけ大事であるとか、学校が潰れないようにするにはどうしたらいいかという意識は薄いかもしれない。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>それから、市民あがての取組をするという必要性から、来年度、組織名称は決めていないが、地元3高校を盛り上げる市民あがての会をつくっていきたいと考えている。市内3高校なので、篠山鳳鳴高校だけでなく、篠山産業高校、篠山東雲高校合わせてである。まだ構成も何も決めていないが、市長部局のほうで、議論を盛り上げるような市民の方も入れて、地域や塾の方も入れて、どういった取組が良いのかといったことを検討していく必要があると考える。元々、篠山東雲高校が、40人定員のうち20人少しの生徒数で、非常に人数的には危ない状況が続いており、開校から10年たち、また篠山産業高校にも農業科がありこれからどうするかのかという課題もあるので、そういった会をつくらうとしていたが、篠山東雲高校と篠山鳳鳴高校だけということができないので、篠山産業高校も入れて3高校についてそれぞれの学校のことについて検討して雰囲気盛り上げていきたいと考えている。これは教育委員会の取組とは別のものとしてやっていく。</p>
<p>丹後教育長</p>	<p>その会のどのタイミングが良いのかわからないが、各高校も会に入ってもらった方がいい。最初から高校が入ると自由な発想を妨げることもあるかもしれないが、取組を実現するためには高校の考えもないと、せっかく考えた取組が高校からするとありがた迷惑のようになってしまっても本末転倒になるので、高校の思いもどこかで組み込んでほしいと思う。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>校長になるかどうかはわからないが、高校にも入っていただく。</p> <p>教育長は高校教育の専門家としてずっと見ておられたわけなので聞くが、三田市内高校、柏原高校、市内高校において、授業で何か差があるのか。</p>
<p>丹後教育長</p>	<p>授業の内容に差は感じない。探究授業があるというのは素晴らしい取組だと思う。それは地元愛の面だけではなく、一方的に教え込まれる授業ではな</p>

中村委員	<p>く、特に探究は自分から課題を見つけて自分で研究していくということなので、これは丹波篠山の課題にも目覚めるとともに、そういう主体的な勉強は非常に大事なことで、篠山鳳鳴高校にはそんな授業もあるし、全く劣っておらず優れている面だと思う。</p> <p>在学生も卒業生も言うが、篠山鳳鳴高校に行けば、ある程度の大学に行ける。推薦も含め、安定した大学へ早期に決まっていく。その次の段階を打破しようと思うと、そこに特化している三田や宝塚の難関高校に進学を希望するのではないか。あとは、通学距離が近いのが、篠山鳳鳴高校を選んでいる人の声である。</p>
酒井市長 丹後教育長	<p>篠山鳳鳴高校の生徒は1月にある共通テストを受験しないのか。</p> <p>昔ほど受験する人は多くない。それまでに推薦で決まっていることが多い。それは篠山鳳鳴高校に限ったことではなく一般的な傾向である。推薦で決めるのは全員ではない。もちろん、最後まで頑張っている生徒もいる。まだこれから本番という生徒もいるが、ほとんどの生徒が決まっていて、大学入学後の学生生活のことを考えている雰囲気の中なかで、最後まで集中して勉強するのは難しいという環境もある。篠山鳳鳴高校の学年団の教員も皆で進路を実現すると通信にも書いてあったし、そういう呼びかけはしてあると思うが、実際としてはほぼ進学先が決まっていることが多い。篠山鳳鳴高校だけの傾向ではなく、高校生自身が早く進学先を決定したいという思いが強い。</p>
酒井市長	<p>これから国公立大学も私立大学も入試がある。それまでにどこか推薦で決まっているのか。</p>
丹後教育長	<p>今はいろんなタイプの入試がある。</p>
酒井市長	<p>推薦入試で決まっているということか。</p>
中村委員	<p>全員ではないが決まっている。</p>
酒井市長	<p>味間地域あたりは市内高校についての雰囲気はなかなか難しいか。</p>
西田委員	<p>私の周りではそのような状況であり、実際三田市内高校に進学している。駅が近いということは大きいと思う。</p>
丹後教育長	<p>先ほどの大学推薦入試であるが、高校によって差があるのか。</p> <p>指定校推薦は、大学からどれだけ推薦がもらえるかは高校によって違う。今までの進学実績とかで決まる。推薦枠を決めるのは大学であり、それは皆一律に同じ枠組みではない。</p>
西田委員	<p>篠山鳳鳴高校は指定校推薦も厳しい状況なのか。</p>
丹後教育長	<p>そのようなことはなく、逆に結構枠をもらっているのではないかと思う。</p>
西田委員	<p>そういうことを我々は知らない。</p>
丹後教育長	<p>指定校推薦のことをアピールするのも何か違うと思う。</p>
西田委員	<p>アピールをするようにとは言わないが、イメージであるが、指定校推薦枠も下がっていているのではないかと感じた。</p>
丹後教育長	<p>指定校推薦は十分あると思う。自分の行きたい大学ではないけど、とりあえず合格を早く得るために指定校推薦を選ぶようなことになってはいけない。やはり自分が行きたい大学に、最後の一般入試まで頑張って勉強する。</p>

酒井市長	<p>私は高校教員時代そう思っていたし、生徒にもそのようにすすめていた。受験勉強をすること自体いろんな力がつく。早く進学先を決めてしまうと勉強することが早く終わってしまうところがある。ただ、自分の行きたい大学、学科が指定校推薦枠であるのなら、指定校推薦で決定するのもありかと思う。篠山鳳鳴高校には十分指定校推薦はあると思うし、指定校推薦は篠山産業高校にも、篠山東雲高校にもある。ただ指定校推薦はたくさんの大学からあっても、学部や学科がたくさんあるわけではないので、その枠をとるための校内での競争になる。枠が1.2人なのでそこを誰にするかという校内の競争である。</p> <p>それでは、今年度いろいろ取組はしたがその結果がまだわからず、1年で回復するというのも難しいと思うので、引き続き取り組んでいく。教育委員会ですることは取組をすすめる体制をとっていただきたい。</p> <p>市長部局のほうも、市民あげて雰囲気盛り上げる何かしらを検討したいと思っている。</p> <p>できるだけ、高校教員、中学教員、小学校教員の相互理解をうまくとっていただいたり、高校生、小学生、中学生が、一緒になって地域で何かやっていくようなことを考えないといけないと思うので、どうしたらいいのか皆さんに考えていただきたい。</p> <p>短期的には今年度取り組んだことを来年度に向けて取り組むようによろしくお願いしたい。</p> <p>志望者数については、最後の最後まで諦めることのないようよろしくお願いしたい。</p> <p>5年ほど前の総合教育会議中で塾関係者に来ていただいたことがある。その時は志望者が三田市内高校に流れている理由が、塾の指導にあると聞いた。偏差値が高い生徒にはこの高校に行きなさいという指導があるという指摘があったので塾関係者に総合教育会議に来ていただいた。</p> <p>多くの塾は、特に地元出身で塾講師をしている方は、地元の高校を大事にしたいと言われたが、大手塾は会議に出席いただくこともなかなか難しかった。今はそういう傾向はないのか。</p> <p>高校の偏差値で志望校を決めていくとかいうのは残っているのか。</p>
西羅次長	<p>先ほど説明したとおり、今の塾は個別指導である。塾生でも勉強が得意な塾生とそうではない塾生、いろんな塾生がいる。塾の方からここに行きなさいとかいう指導はなく、相談されたら一緒に考えると言われた。</p>
酒井市長	<p>11月時点での志望者数では60人くらい定員が割れるようであるが、第2志望によっていくらか増えそうなのか。</p>
丹後教育長	<p>10名程度の人数である。</p>
酒井市長	<p>それなら最後まで頑張っていくしかない。</p> <p>最後、教育長から一言お願いする。</p>
丹後教育長	<p>第2回総合教育会議も市内3高校の問題を中心に議論した。なかなか簡単ではないが、会議中にも何回も意見が出ていたように、高校が存続するかど</p>

酒井市長	<p>うかということは市にとっても非常に大事な課題でもあり、子どもたちにとっても市内の高校で学ぶということは、市外高校で特別にそこで学びたいことがあるというのは別として、そうでない限りは市内高校に進学し、通学時間を自分の高校生活充実のために活かせることもある。これからも、市内で学ぶ良さを高校と一緒に、市教育委員会も呼びかけて発信していきたいと思う。これからもそれぞれアイデアを持ち寄って盛り上げていきたい。</p> <p>以上で、令和3年度第2回丹波篠山市総合教育会議を終了する。</p>
------	---